

(技術名) ソデイカとメバチの釣り針への喰い付き直後の行動							
(要約) ソデイカの旗流し操業時に取り付けした深度計のサンプリング間隔を1秒にしたところ、ソデイカは擬餌針に喰い付いた直後急潜航し、 <u>メバチ</u> は釣り針に喰い付いた直後急浮上する行動が観測できた。							
(試験研究機関・研究室名) 沖縄県水産海洋研究センター 海洋資源・養殖班					連絡先	098-994-3593	
部会名	水産部会	専門	漁場開発	対象	ソデイカ	分類	研究
普及対象地域							

[背景・ねらい]

海面高度図を用いてソデイカ漁場を推定することが可能となったので、次に、ソデイカの垂直分布を把握する調査を実施した。ソデイカの釣獲水深を正確に知るために漁法を浮延縄から旗流しに変更した。旗流し立縄漁具に深度計を取り付け、併せてメカジキの漁獲状況も調査するためソデイカ擬餌針の下にまぐる針を付け操業した。回収した深度計のデータから、ソデイカとメバチが釣り針へ喰い付いた直後の行動について知見が得られたので研究情報として報告する。ソデイカの生態や行動を理解することは、漁具漁法改良の一助になる。

[成果の内容・特徴]

1. 旗流し漁具に取り付けた深度計のサンプリング間隔を1秒にしたところ、ソデイカが擬餌針に喰い付いた直後の行動を観測することができた。
2. ソデイカの漁獲のあった10例すべてについて、深度計データを検証したところ喰い付き直後、急激な潜航の反応が見られた。
3. 深度の上下の振幅が、急激な潜航の反応が見られたポイントの前後で変化しており、このポイント以降で振幅が大きくなっていることから、このポイントをソデイカが喰い付いたポイントと判断した（反応例、図1～図3、矢印は喰い付きポイントを示す）。
4. 尾叉長117.5cm、体重30Kgのメバチは水深498mで釣り針に喰い付いた直後、一気に約60m急浮上した（図4）。
5. 今回の調査で縄が切断された事例があり、その内2例からは喰い付き直後150m～250m急浮上した深度計データが得られている。

[成果の活用面・留意点]

1. ソデイカの生態や行動を理解する一助となる。
2. メバチは1例だけであるが、メカジキでも同様の報告例がある。

[具体的データ]

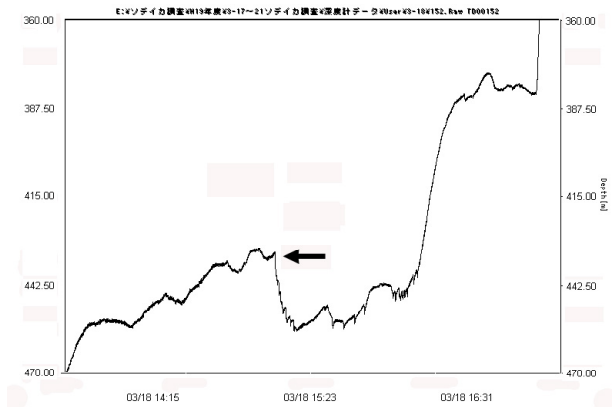


図1 深度計データの反応例
(横軸は時間、縦軸は水深、矢印は食い付きポイントを示す)

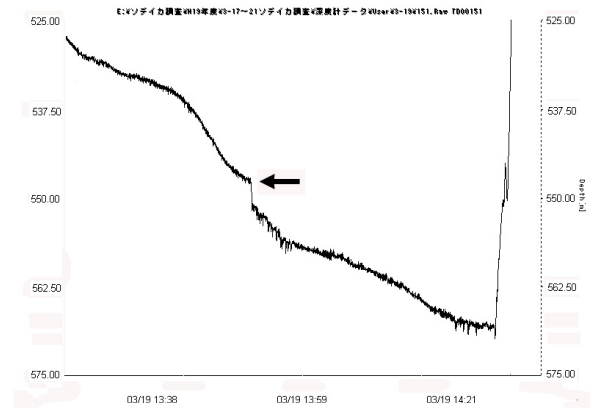


図2 深度計データの反応例
(横軸は時間、縦軸は水深、矢印は食い付きポイントを示す)

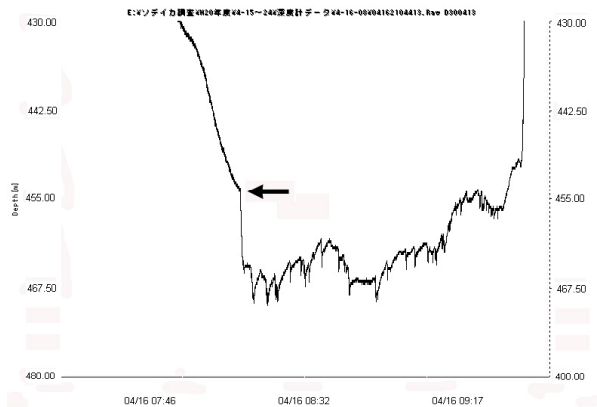


図3 深度計データの反応例
(横軸は時間、縦軸は水深、矢印は食い付きポイントを示す)

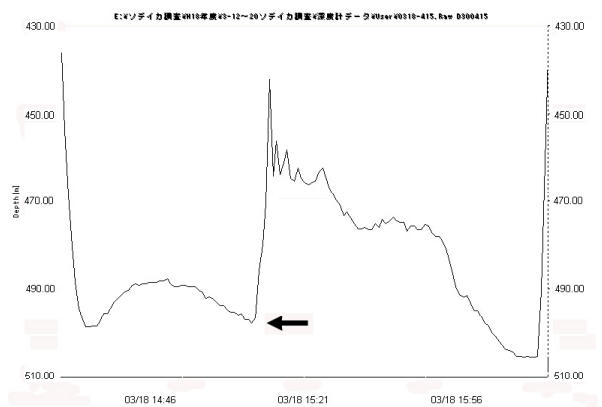


図4 メバチが釣り針に食い付いた直後の
深度変化の状況
(横軸は時間、縦軸は水深、矢印は食い付きポイントを示す)

[その他]

研究課題名：ソデイカ漁場形成要因に関する調査

予算区分：県単

研究期間：平成17年度～平成19年度

研究担当者：山本隆司

発表論文等：山本隆司、2008：ソデイカとメバチの釣り針への食い付き直後の行動。

沖縄県水産海洋研究センター事業報告書 69、 23-30